

# 独創的な技術を追い求めて切磋琢磨 無人化機械、再生可能エネルギー、 時代が求める「ものづくり」で社会貢献

タクマ精工

タクマ精工（海老名市  
社家、白石稜威男社長、  
046・239・0755、  
<http://takuma-seiko.co.jp>）

は、精密治工具をはじめ生  
産設備の自動化、無人化機  
械の設計・製作・販売から、  
微生物検出装置など多岐に  
わたる分野を手がけてき

た。社名には「皆がお互いを練り磨  
いて技術の向上を求め切磋琢磨し  
よう」遅しく、豊かな心を持つよう  
という想いがこめられている。

同社を代表する製品が、多様な  
技術を基に昭和60年に開発した  
「1台二役、人に優しい」無人搬送  
車である。台車型無人搬送車の先  
駆けとして、今日までに販売累計  
8,500台を超える実績と信頼  
を築いている。

同社の強みは、精密な各種ゲー  
ジ類から自動組立ラインまで分  
野にとらわれず、お客様のニーズ  
に合わせて開発・設計・製作・販  
売までワンストップで提供できる  
ことだ。「各分野の協力会社とと

もに、いつでもど  
のようなご要望に  
もお応えできる体  
制を整えており、  
ノーと言わないタ  
クマ精工です」と  
白石社長は自信を  
覗かせる。今まで  
製作してきたさま  
ざまな試作機のす  
べてが、一から試  
行錯誤を重ねた成



本社ビル、工場

果、正にアイデ  
アと技術、経験  
の結晶である。  
開発の苦労と  
ものづくりの  
魅力について  
熱く語る社長  
の話は尽きな  
かった。「時代  
が求めるものづくりに柔軟で独  
創的な技術で応え、お客様のお役  
に立てる商品開発に積極的に取  
組み、社会貢献に最善を尽くしま  
す」。

時代を反映して最近では再生可能  
エネルギー関連のニーズが増し、  
工場内にとり狭しと並んだ太陽  
光や風力発電の試作機からデー々  
取得に励んでおり、実用化の目途  
も付いているとのこと。また、環境  
技術面では、京都大学の教授らと  
提携した土壌からセシウムを除去  
する装置の開発が既に実用化でき  
るレベルにあり、今後この技術に  
より被災地での活躍が期待されて  
いる。

## TC-900WP24



写真提供：オプティコム社 Photograph: the tractor with editor

信頼と実績の牽引型無人搬送車シリーズ